

平成26年度 文部科学省指定 「スーパー・プロフェッショナル・ハイスクール」中間報告会

1 7月より実施開始

平成26年度 文部科学省指定事業「スーパー・プロフェッショナル・ハイスクール」（以下SPH）がスタートしました。詳細については宮城県農業高等学校 スーパー・プロフェッショナル・ハイスクール（SPH）構想図をご覧ください。

初年度テーマは下記のとおりです。

- ①第1学年必修科目「農業と環境」の充実
- ②教員の指導力と資質の向上
- ③地域のニーズの把握の実践

2 運営指導委員会の概要と御指導いただく先生方

①運営指導委員会の位置づけ

実施校からの報告に対する指導助言のほかに、事業の円滑な実施に努める。研究成果の普及方法については、県の関係部局やJAと連携し、農業高校のみならず、県内農家や生産組織に対しても普及・広報を進めていきます。

②運営指導委員会の活動計画

- ア 教員研修への指導助言
- イ 各学科のプログラムの進捗について助言
- ウ 研究成果の普及

③運営指導委員の先生方

氏名	職名
富樫 千之	宮城大学 食産業学部 教授
中村 茂雄	宮城大学 食産業学部 教授
岩本 正敏	東北学院大学工学部電気情報工学科准教授
大沼 康	宮城県農業・園芸総合研究所 所長
真木 伸治	宮城県農業大学校 校長
庄子 喜幸	公益社団法人みやぎ農業振興公社 担い手育成担当
佐藤 富志雄	JA名取岩沼 代表理事(組合長)
鈴木 南枝	アーバンスコップ倶楽部代表
松浦 正博	農家
山内 明樹	宮城県教育庁 高校教育課課長
伊澤 裕樹	主任主査(指導主事)
佐々木 英一	宮城県農業高等学校 校長

3 実施要項

平成26年度「スーパー・プロフェッショナル・ハイスクール」

第1回中間報告会実施要項

- 1 日時 平成26年8月21日(木) 13:00～13:30 受付
13:30～13:40 開会
13:40～15:55 発表・協議
15:55～16:00 閉会
- 2 出席者 SPH運営指導委員(詳細別紙)
校長、教頭、農場長、各学科長、農業教職員
- 3 会場 実習棟A コンピュータ室
- 4 タイムスケジュール
 - 1)開会
 - 2)各学科のこれまでの取組み
 - 農業科
 - 園芸科
 - 生活科
 - 休憩
 - 食品化学科
 - 農業機械科
 - 農業と環境
 - 休憩
 - 3)運営指導委員からの提言
 - 4)その他
 - 5)閉会



中間発表会の様子

4 「農業と環境」の充実 ～キャリア教育の充実～

5 農家訪問



↑整列は始業前にきちんと並ぶのは社会に巣立つ高校生なら当たり前！！

農園科では、4月5日に整列・移動の仕方を勉強します。団体行動、相手への思いやりなど一体感を高めるため指導しています。また、圃場までの片道1.5キロを40人安全に移動するためには団体行動が必要不可欠です。入学当初は圃場に到着するまでに何度も止められ注意されていましたが、今では立派に整列・移動できるようになりました。一列で行進できることが良いのではなく、みんなで規律を守っていることが良いことだと思います。

夏休みは、ジャガイモの収穫・選別の実習をしました。その際、班長・副班長を決めて、先生から伝えられたことを班長が班員に伝えるなど「リーダー」・「班員」として役割を明確にして実習に取り組みました。組織で動くために必要なスキルは何かなど考え行動していました。反省会で班長は「明確な指示が出せず難しかった。」や「班員にフォローしてもらって助かった。」など班長の立場からの意見が出されました。逆に班員から班長へ「指示がもう少し明確であればスムーズに実習に取り組めた。」など意見が出されました。班員の人たちは自分が班長になったら、明確な指示を出す必要があると考えたようです。みんな、それぞれの立場で行動する大切さと協力してひとつのことに取り組む大切さを学んでいます。



↑各班長が先生からの指示を班員に伝えている様子。効率よく実習を進めるために時間を使っています。



↑班長から指示が出されています。みんな協力する姿勢が見えています。

研究の内容・方法

1年目

- ①農業担当教員の技術力やその実践力の向上
- ②農政の変化をふまえた農業教育の実施
- ③農業に対する理解者を増やす

方法

- ・農業担当教員一人10カ所での研修
- ・研修発表会の実施
- ・機関誌・HPなどの広報の充実
- ・報告書の作成

上記①②③を把握するために、7月上旬より地域農家・農業法人にアンケート調査・技術調査にお伺いしています。予定では10月まで続けて行う予定です。



6 中間報告を終えて

運営指導委員の先生方から中間報告を終えてご意見いただきました。

中間報告会を終えて

年度末報告会に向けて

以上についてご意見を頂きました。

中間報告会を終えて

○アンケートの目的が明確でないため、アンケート方法や内容に課題があった。そのため、プレゼンが羅列になっていた。

○各学科縦割りプレゼンになり、横断的要素がなかった。

○発表の先生方のプレゼンの理解度に差があった。

○調査実施方法の説明を最初にしてもらえると理解しやすかった。

○事業開始から短期間での取組みの難しさを感じた。

○アンケート結果のみで地域ネットワークづくりの工夫後の報告に欠けていた。

年度末報告会に向けて

○生徒に6次産業化、特産物栽培、農家レストラン等を駆使して儲かって、楽しく就業している個人就農者、農業法人等を身近に感じさせることが大切。そのために、先生方の理解と行動として、上記の人々や組織を調べ、その秘訣を調査し、生徒に調査

結果を報告するとともに、就農意欲や修学意欲を喚起する。

◎調査対象結果の解析ができるようにある程度指定すべきです。

◎一人で10カ所調査は大変かと思います。慣れない先生方は二人で訪問した方が話が弾み、いろいろな意見が聴けると思うので柔軟な対応があってよいと思います。

◎経営形態、地域等による違い、震災後の意識変化等、データの解析に期待しています。今後、生産の中心（重要な就職先）となる大規模な法人については、（10年前とは違いますので）調査項目を追加してもよいかもしれません。

◎1年目は先生方の意識改革が重要な目標かと思いますが、この取組後の意識変化等がうかがえるプレゼンを期待します。

◎「高校として地域や農業との関わり方を具体的にイメージし、どのような視点から就農率向上へ繋げるかの行動計画を作成しては如何でしょうか。

